

建築事業本部

高度な技術力を駆使し、オフィスビルから文化・教育施設、商業施設、医療施設に至る多様な建築物の建設を手がけるとともに、企画設計段階から運営・メンテナンスまで、建物の生涯を通じたサービスの提供を実現しています。

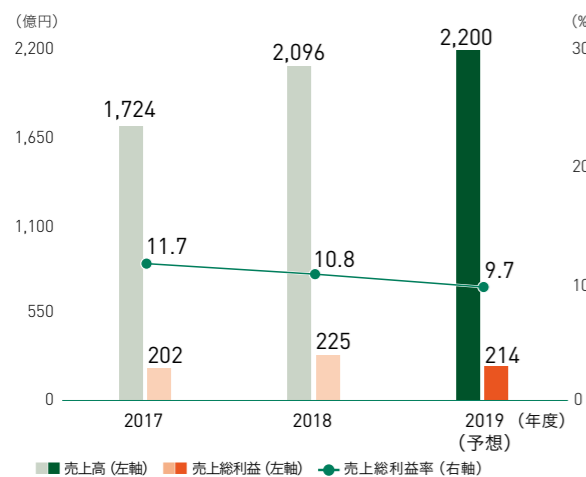


(仮称) イオンモールいわき小名浜新築工事

西松-Vision2027での 目指す姿

お客様目線でのモノづくりを徹底し、最高水準の施工・サービス品質・エコファースト企業の追求を続け、国内建設市場の縮小、建設投資の減少を想定した中、市場に左右されない強靱な体制を築き、継続的・安定的利益が確保できる、信頼ある事業体として成長を遂げていきます。

売上高／売上総利益／売上総利益率 (個別ベース)



「第16回公共建築賞」優秀賞を受賞

2018年6月、一般社団法人公共建築協会が主催する「第16回公共建築賞」が開催されました。公共建築賞は、優れた公共建築を表彰することにより公共建築の総合的な水準の向上に寄与することを目的としたもので、当社は「広島市立広島特別支援学校」で「優秀賞」を受賞しました。障がいのある子どもたちのための特別支援学校をつくるにあたって、学校関係者や行政、設計者との相互の親密な協力と理解のもと施工したことが評価されたものです。



公共建築賞 銘板

戦略解説

“最上級の顧客満足度”の実現を通して 建築事業を発展・継続させる

建築事業本部長 前田 亮



営業・現業一体化による受注戦略構築の一環として取組んだ完成工事高の見える化が奏功し、2018年度の業績目標を受注高、売上高、売上総利益のすべてで達成できました。今後は、顧客目線に立った価値の提供に注力することでお客様の信頼を勝ち取るとともに、稼働中の現場業務の配分による効率化と電子化・自動化の推進を担う現場工務革新センターをフル活用することで、市場に左右されない体制の構築と持続的、安定的利益を確保できる建築事業へと成長していく道筋ができました。

社会の変化のスピードは私たちの想像を超えた速さで進展しており、この環境の変化に追従し、素早い対応と効果的な改善策をいかに打ち出せるかが成否を分けると考えています。それゆえに、今求められ

るのは難局を乗り越えるための革新的な発想であり、しかるべき解決策を一致団結して実行する、その先に建築事業の持続的成長があると考えます。

2020年を見据えた建築事業本部の戦略としては、持続的成長や未来戦略構築のために投資し、他社との差別化ができる技術力や新たな価値の創造を実現して事業の強化を図ります。また、企業成長戦略として、他業種企業との連携による新分野の開発など、企業価値の向上に取組みます。建築事業本部としても、事業に携わる全員がベクトルを合わせ、一人ひとりが経営目線で考え、主体性と柔軟性をもって社員が丸となって行動することが成長への鍵であり、最上級の顧客満足度の提供につながると考えています。

TOPIC 特殊条件下での施工と近隣環境への配慮

本工事は、京都の中心部である河原町・新京極エリアに位置した地下1階、地上9階の店舗・宿泊施設の建替え工事です。事業主である松竹(株)の「創業の地」とされている芝居小屋「阪井座」があった計画地は、狭小な敷地であるうえに木造店舗が隣接しており、過去2度の建替えによる既存地下躯体が残置されていました。

計画地に面した唯一の搬出入ルートである新京極通りは観光客で賑わっており、平日も歩行者専用道路の商店街であるため、車両の通行に厳しい制限がありました。通行できる車両は原則4トン以下で、午前5:00～9:00の4時間に限り通行許可を得て資材の搬出入を行いました。また、コンクリート打設のみ、夜間(23:00～9:00)にて近隣住民に打設の同意が得られました。

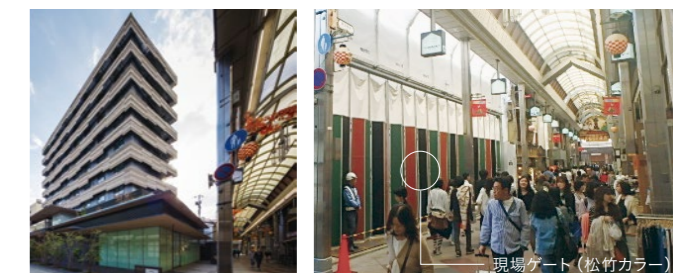
狭小な敷地、木造店舗の隣接、過去2度の建替えによる2世代の地下躯体とさまざまな困難が多くありましたが、すべてにおいて一つひとつ確実に調査・検討・実行・確認を繰り返して行かないと強い決意をもって、社員一丸となり安全と品質の確保に努めました。このよう

な特殊な条件下で無事故・無災害を達成し、近隣住民と良好な関係を保ちながら無事に竣工することができ、今では新京極の新たなシンボルとして多くの方々に利用されています。



磯地 靖貴

工事名：(仮称) 京都松竹第三ビル建替え工事
発注者：松竹株式会社
施工場所：京都府京都市中京区新京極四条上ル
工期：2017年5月1日～2018年11月26日



現場ゲート(松竹カラー)